



大学入学共通テストに向けて

3 年生は、大学入学共通テストまで、あと 2 か月ほどになってきました。直前期である 12 月の過ごし方が、共通テストでの好成績を収めるための重要な期間です。そして、これまで並行して進めてきた個別試験対策との学習時間のバランスを思い切って見直し、共通テストに特化した戦略へと舵を切るべき重要な局面でもあります。共通テストの成否を分けるのは、問題自体の難易度ではありません。むしろ、特有の出題形式と厳しい時間制限への習熟度が、結果を大きく左右します。しかし、これは裏を返せば、残された期間でも対策が十分可能だということになります。この最終盤での演習量を大幅に増やし、時間配分の感覚を体に染み込ませることができれば、得点を大幅に向上させることは可能です。

そこで、この 2 か月で心掛けてほしいことを一覧表にまとめてみました。ぜひ、参考にしてみてください。

【直前期の必勝チェックリスト】

1, 知識を徹底的に

※知識問題で確実に得点するためには、暗記事項の完成度が、大きく左右します。登下校中や休み時間などの隙間時間を最大限に活用し、繰り返し確認していきましょう。

2, 試験日程に合わせた生活のリズムを

※大学入学共通テストは、実施される二日間ともに午前中から18時過ぎまで行われます。特に、多くの科目が午後に実施されるので、夕方まで集中できる生活のリズムを確立させることが大切です。直前演習として校内で実施される共通テスト対策演習（4 回）を活用して、入試本番と同じ時間帯で高い集中力を持続させていけるよう心がけてください。

3, 万全な体調管理を

※最後の最後に体調を崩すことほど悔しいことはありません。うがい・手洗いの励行と食事や睡眠をしっかりとするといった規則正しい生活を心がけることが重要です。

4, 学習方針の再確認

※12月からは共通テスト対策が学習の主軸であることを再確認し、週に一度は必ずマーク式演習を行うなど、大学入学共通テストで好成績を収めるための学習を徹底してください。

模試データに基づく主要大学入試動向分析

2025 年度大学入試における主要大学の志望動向を早期に把握することで、3 年生は、今後の受験戦略を組み立てやすくなります。その分析の根拠となるデータは、信頼性の高い指標として広く認知されている「2025 年度第 1 回ベネッセ・駿台共通テスト模試」の情報です。この模試は、全国の多数の受験生が参加するため、現時点での志望動向を測る上で極めて重要な資料となります。

そこで、多くの本校生徒が、志望している九州地区の主な国立大学の動向や広島大学・岡山大学の情報をまとめてみました。

1, 九州大学の動向

九州大学は、依然として高い人気を維持しています。2025 年度の志望者動向を見ると、法学部（前年比 114% ↑）、経済学部（経済・経営 119% ↑）、理学部（115% ↑）、工学部（114% ↑）といった主要学部で軒並み志望者が増加しており、大学全体として人気さがさらに高まっていることがうかがえます。これは、難関大学への挑戦意欲を持つ上位層の受験生が、引き続き九州大学を第一志望として強く意識していることの表れと言えるでしょう。

2, 広島大学・岡山大学の動向

岡山大学経済学部（119% ↑）や広島大学法学部（121% ↑）といった文系の基幹学部で志望者が大幅に増加していることがわかります。この傾向は、過年度の実質倍率にも表れており、岡山大学経済学部は 1.6 倍（23 年度）から 2.1 倍（24 年度）へ、広島大学法学部は 1.8 倍（23 年度）から 2.3 倍（24 年度）へと競争が激化しています。これは資格取得や就職に有利とされる伝統的な社会科学系学部への人気回帰を明確に示しています。

3, 熊本大学 工学部（半導体デバイス工学課程）

志望者数 568 名（前年比 107% ↑）と、近年の半導体産業の集積を背景とした新設分野への高い関心がうかがえます。

4, 鹿児島大学 共同獣医学部

B 判定ラインが 66 と非常に高く、過年度の実質倍率も 8.4 倍（2024 年度）を記録するなど、依然として全国トップクラスの難易度と競争率を維持しています。

5, 長崎大学 経済学部

志望者数が前年比 116% ↑と大きく増加しており、地域の経済を担う人材育成方針に対する受験の大きな期待が表れています。

6, 佐賀大学 理工学部

全体で志望者数が前年比 111% ↑と増加しており、特に情報分野への志望者が 542 名と多く、情報系への関心の高さがここでも確認できます。

令和 9 年度鹿児島大学入試変更点（2 年生対象）

2 年生の皆さんも 11 月全国模試から理科・地歴公民の科目を受験し、志望校合格に向けた受験学習がスタートしました。そこで、2 年生対象の「令和 9 年度鹿児島大学入試変更点」を取り上げます。入試変更点を正しく理解することで、ライバルに差をつける準備を始めましょう。詳細については、大学のウェブサイトで必ず確認してください。

令和 9 年度鹿児島大学入試の主な変更点

①「地域志向」と「専門性」の重視

※教育学部初等教育コース学校推薦型選抜入試Ⅱにおける「地域教員希望枠（9 人）」や医学部保健学科総合型選抜入試における「離島枠（2 人）」が新設されます。

②「多面的な評価」へのシフト

※教育学部学校推薦型選抜入試において、複数のコースで学業成績だけでなく部活動やボランティアなどの活動実績を評価対象に加える動きがあります。そのため、高校生活全体を通しての主体的な学びが重要になってきます。

③ 後期日程から前期・推薦重視への移行

※共同獣医学部や教育学部で後期日程が廃止・縮小され、専門性の高い推薦・総合型選抜が拡充されたことは、大学側が早期に鹿児島大学を第一志望とする「強い動機」を持った学生を求めていることを示しています。

共励切磋 和して同ずるなかれ

1 年 4 組担任

先日行われた桜島でのロードレース大会は、今年で2回目。私は初めての参加であった。運動部所属の日頃運動している生徒や、体育以外はほぼ運動ゼロの生徒、持久走が得意な生徒、苦手な生徒、各人のロードレースに対する思いや状況は様々であったろうが、それでも、出発前には男子も女子も^{とき}関の声？をあげて、自らを奮い立たせて勢いよくスタートしていった。

茶色のファミリーマートの前で鮫島先生・中山先生と、コンビニに入る車との交通整理をしながら、走る生徒たちに声をかけて励ました。

新記録か？というような速いペースで駆け抜ける生徒、お腹を押さえたり、足を引きずりながらも走り続ける生徒、いろんな生徒を見た。保護者とおぼしき方や地元の方も応援をしてくださっていた。

個人目標のタイム達成に懸命な姿や、少しでも順位をあげようと競い合う姿、「向こうに座って苦しそうな生徒がいます」と教えてくれる優しさなど、それぞれの生徒たちのいろんな姿を間近に見ることができた。

ロードレースも終盤になると、手こそ繋いでいないが、仲良く？足並みを揃えて走ってくる集団が増えた。思わず、大声で呼びかけた。

「共励切磋！ 和して同ずるなかれ！」

横に広がった集団が、縦に広がっていった。明らかに集団としてペースを上げていった。

これが、鹿児島中央高校だと思った。

鹿児島中央高校の伝統だと思った。

キツくて上手いかないときがあっても、共励切磋、頑張る友の姿に励まされ、頑張り始めた友に必死に食らい付いていく。

勉強でも部活動でも同じだろう。成績が振るわないとき、頑張ってもレギュラーになれなかったとき、周りを見れば「このままでは駄目だ」と感じさせてくれる友が必ずいて、その度に何度でも奮起して自分の目標の実現の為に懸命の努力を復活させることができる。それが、鹿児島中央高校の伝統だ。

来年度から、朝課外は無くなる。しかし、既に、朝課外がないときも同じ時間に学校に来て自習する取組を続けている生徒もいる。その時間を家でゆっくりして授業に集中することを選んでいく生徒もいる。そうした姿に励まされ、自分の目標の実現の為に努力する生徒が増えていくと信じている。朝課外を体験した最後の学年として、63 期1年生には、キツイときもお互いに刺激し合って高め合って、学び続ける3年間を過ごすことこそ、鹿児島中央高校の伝統であると後輩たちに示し続ける責任があると思う。64 期生 65 期生たちが後に続きたくくなるような立派な先輩となれるよう、残りの4か月を過ごして欲しい。